

晴れ一時雲

三日月 午後六時迄
 三日月 午後六時迄
 ▲三月三日

| | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|
| 二月 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 十 | 十一 | 十二 |
| 二 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 十 | 十一 | 十二 |
| 二 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 十 | 十一 | 十二 |

から手を差し延べ、盃をとつて乾

友達許りで、俊坊の友達は一人も、
戯をしてやらうと、雛段の下に、

いゝ美代子ちゃんが生れたので
なつて今日のお雛祭に澤山の御女

一塵襲來して莫れん
に眼を輝しつゝあつた政治家

等は却て氣味悪く感じた程で、
た如くに露國でも愛國の士も、
夫人等の陰謀を付け狙つ時、あ

此に於て伯林政府は露國の政法を以て軍事上の諸計畫を知ることを露國の聯盟國よりも遙かに

夫人等が此の運動
に要した金に、百萬

悲慘であつた夫人等はスツ
ルを首相に据ゑたのみならず
トポポフを外務次官に任命せ

に据ゑる事が出来た夫人に取
は非ぬの成功であるが段々露
獨探謀の手に陥つて行くと

露帝を誘つて遂に首尾

卷に病む者が漸く多くなつて終
 夫人等の仕事も事毎に障害を被
 る様になつて来た處が早切のハ

著者 小笠原少将瀧まつたときから大正二年
旭町に區州を開いた時には抱へさいつつ
他かに二人位しか無かつたが今では京成
の中心と成てる大小乗數十四五人を擁

る内に妾は川念者ですから流で相通す隙
しう知性が時の伊勢社蔵、大久保明石の

金峰盛

の世話女房であつたがフトした事から夫
れ明治三十九年頃に仁川に來て一山に傳
住込んだのが水原縣に入つた即ちの地

久家千代本の兩女將の條に是まで至るに
 涯にわなかつた爲に一人の戸籍割へ
 て見るさ、阿は博多の生れて取つて四十

前の千代本の女將も成る程度まで頗つて
る。兎に角千代本の新女將とはごんな女

醫學士
村上龍藏
電話六二三番

品あり御買求の際は
御注意を乞ふ

五五五五
 十十十十
 錢鐵錢錢
 練熟ミ料材
 品しせ造製
 な品適好て
 知通師數文の
 附送てに費
 町下宿
 店靴化
 商發登壹七壹

表變化靴
一以實簡金方
靴用は引市
最紳襪小芝
入士襪包區
選精は靴一
錢錢錢錢
五五五五
圓圓圓圓
國國國國

編上靴
五圓五錢
五圓五錢
五圓五錢
の上以
新接ら
一ばれ
文注仰
いれあ
東
三
活魂

電話 長一一三五番
二七七九番

代本

に酬ゆべく何卒相變
して願上候 敬白

し重荷には候へ共富
通リ營業致す事に相

土候就ては今回千代
め廢業致し候に付き

清勝の段泰賀候陳者

指南

券券
東京本所區元町
長崎市伊良林町
鳥取縣倉吉町
佐々木森
山口
松井
夕

圓圖
 代理店 六百二十餘個所
 知名紙業家八名
 勤業債券所有高六十二萬五千餘
 千五百五十一名

東に付此際益々業務の
主として契約紹介員を募集仕
すべし者

左の統計により明瞭致
續々顯はれ弊害百出
者縮法案提出され近
か取締る二至り云々

募集廣告

This image shows a blank page from a document. There are dark vertical bands along the left and right edges, likely representing the binding or scanning artifacts. The central area is white and contains no text or figures.

監獄も生活難で
粗食多量主義で

十錢二月廿八日に於て十六圓
 經の高値を現れりこれが原因
 明なるも目下奉天市場にては
 地が騰いから」と釋し一般長
 方面の盛あげに伴ひたるもの
 ことも此は烏度理解し難き現象か
 留相場の最低價は昨年十二
 月九日の十一圓五十錢（百留に付

多くの人も好いかも知れぬ三席
事を普通に食つてそれで居る
が悪いの飯が不味いのと贅

平南の畜牛界

價格の暴騰と頭數の増殖
 生牛の暴騰若しく其結果

銀より十一圓廿錢を喰へたる
 角最近一躍し
 西五圓方を持ち直せるは一奇也

は更に一月六七日の十
 來來市價常ならず本年
 頭數の暴騰と頭數の増殖

多く知らぬが
 聖靈に生きよと呼號し
 美味必 ずしも人に

に於ても先商を理想し手放すも
 且つ昨年は一般に農家の便
 利を謀るに因り賣放つも
 一面に於て畜産
 の宜敷に依つて生牛の飼養數
 を増加し平安南道に於ては
 大正五年末七萬八千餘頭
 現今八萬四千餘頭の名

辛一碗の味噌汁或ひは牛骨
た菜葉の煎物を菜としてそ
吸しつゝ而も日輪を仰がね

鴨江材大活況
商圏益々擴大す

ける囚人の健康状態に就ての統計を掲ぐる

| 年 齢 | 人 員 | 健康歩合 | 平均 |
|------|-----|------|----|
| 十歳以下 | 二三 | 甲七 | 二二 |
| 乙三 | 二二 | 二二 | |

所大なるに因り各材木商は此
 際北滿材の仕入れに多大の手配
 をなし居れる爲なり殊に目下
 萬の時は極めて重大なるもの
 如く何時如何なる邊より極端
 なる言ひ難き有様なるにより牛
 東の不安著しく爲めに平年な
 警方面迄の地は全蒙北滿材
 視せられたるにも拘らず本年

を以て見れば人間は食物は
何んのと贅澤を云ふべきも
いがそれでも現在物價騰貴

[illegible]

◆ 饑^うじい 思^{おも}ひをして
よりも監獄^{かんごく}に行^いつて食^くふだ
に御厄介^{ごがくわい}になりた^たい等^とと飛^と

喰ふなどは恐らく出来まい。何故ならば一般の物價騰貴を以て漁具が昂り、蝦蟹も昂り、米も來ては漁師も暮しに差支來ずから従て漁獲物は對面にの當額であらねばならぬ。

今の相場では鯖一本で三十錢以上もするので料理屋に任せて銀の指身などは減多に食

を今百二十年前天明元年の
基準として今日に至る高低
と其獎勵實に驚くべきもの
なり白米一百の代價を現置

大連より

一躍一圓五十銖を唱へた
 元化元年には入十六錢七厘
 元年八十銀二厘に復した
 未から慶應の所謂維新革命

奏なり信託株の時價八十圓に對
 九十四圓迄買進みたる者あれど
 方大に停滯な判の和股行爲に
 氣挫け買進み運は即ち後悔し居
 かの如き氣味あり銀鈔信託株は
 建設爲め最高六十五圓のもの
 時二八九圓迄買込みしが昨
 又買手優勢となり少しし頷を
 上げつゝあり

その前の現在稍數約七八十萬戸に達し、
 其の死に及ぶ者は殆んど全部斃盡され、
 生れ又殆んど賣切れの盛況を呈した。

海運界に至りては殊に高價を呈
大連港開港船運費一航七十餘
金なりしものが此の頃俄かに八
錢に値貴し儲け料の如きは一舉
而て方暴騰し近海航路一噸二五
圓にて供給せしき有標なり三
成行如何に由らぬは更に一噸三
圓以上の高價に達すべき極端な
之れと云ふ大連の王なる可運

西鮮棉の眞

有るたる大連汽船、二井物産船舶部
支店を設け、何れも多量に積り居る
如く、持産物の氣配も亦高値にして
汽船の如きは内地米穀の好調と雖
も、買進みに由りて一枚一圓三十
錢位のものが頻りに好氣配を唱
へ、異常のものを買進むに氣
を要し、豆油にも買進むの不況
勢を一見す可き米商市場の不況
に伴れ一時消氣を生じたるにも拘は

作付反別は七萬三千二十七
高四百九十九萬七千二百五
大正五年度に比し實に二

ち近來再び活氣を奮ひ來り、
 天豆の氣配も高見込なり、大豆の
 伸軟が判りにして落着きせば隨て又大
 に取舞行はるべしとの見込みにて更
 に舞舞せんも知るべからず之れは
 刻下の時局と直接の關係なきも聞
 據には其の影響を受けたるものは
 否定し難き事實なり
 價相貴は何處も同じことにて

が非常に好いので例年より
濃縮があるに違いないとの
である先づ三月の末頃にな

三等米と雖も九圓以下にては買はれず之に準じて鰯、鯿、魚鱒、味珍、暗香油類に至るまで三四割乃至五六割の値上げにて中流以下の生計者の資金が窮乏となりありと云ふ。此等の弊を見るは免れ難き愚劣

野村胡堂の「一匁化を求む」か一所
物価の暴騰を見るは免れ難き愚劣

◆随分賑つて来る四月は、
 液^は測^はたる餓^うの味も方^さ程^{ほど}の
 として食卓^{しょくたく}に備^{そな}へる事^{こと}が
 出来^きる。今^{いま}から好^{この}魚^{うしほ}と想像^{そうぞう}

いよべく人心次第に緊張し来る

台所
その
日

五十匁の牛乳の極内を味味
二匁砂糖少しと牛乳油で美味
しく煮ておき排乳は水につ

◇ 凱旋めし ◇

おきになつたら油を去り細く線に切り人掌

かつたのに見れば體かに仁
 の鱧は多いと見當が附けら
 れる何にしても今二箇月三月

けり。其の皮を剥ぎ一寸ばかり細く切り牛蒡は皮を
 けり。小口から薄く切つて茹で干し。水につけ結
 ぶ。五分位長に切つておし牛肉を煮
 けり。後の汁で椎茸八葉干し牛蒡と同様に煮る。伊
 豆は水で薄くなりましたら砂糖を少し
 加へていゝのです別。七合水七合味

電話八七三
三月一日より四大宮高提供
五松之助大一座出廣
本町五福屋の娘お豊は本町小町とさ
全三巻

學及探鑛法

派先生己が罪一全六
 派先生己が罪一全六

[illegible]

一日より大登壇此
活劇スロツトの少年 大落膽門巻
パイカスゴイ大作
茶活劇「大金銀」最雄篇
アブラカン鹹山會社に二人の監督有一
なるトム・クルーズは主人の借出

月一日發行
定價八十錢
正價八十錢
運料八錢
振替京城
三〇〇番號
鹿號
常平庵主人
鮮古參賣校
京城日報
日
嚴松堂

朝鮮中藥業
學驗
李萬春

ります(午後七時四十分より映寫)
 劇 大正の孝女(全二巻)
 筑前屋花入
 供さんにお賢を願います 皆さんなぞ
 西郷九條市岡町の夕刊賣大坂各折廻
 へる大正のき女 松村

美味である
滋養がある
とある

大(手)手踊(歌六)△落語(想出)
 手踊(三輪)△落語(遊生)△落語音曲(笑三)
 手踊(三輪)△落語(遊生)△落語音曲(笑三)
 手踊(三輪)△落語(遊生)△落語音曲(笑三)

味つて見て下さい！
 ち他品の真似のできぬ
 味と滋養が見出され升
 毎食前一杯づつで元氣健康

家令の正見を以て、
雲霧に蔽はれし
ひきまゝに、
ニギハヤヒの
社典蔵

社會劇 悪魔の掬定日 全

自然の黒髪をのびのびに
五回染めれば二色に
大黒染め

當時しか秋風、たち山千原の家、
 不貞親して家に入るを許さず、是より
 にはジョンの身を知何に誘惑せしや
 信ニザアザル妻北最近の件
 信劇、外史、使、廣安、太平記、全

理想の完

東洋捕鯨株式會社特約販賣

[illegible]

社友の一人

になつて來つゝある。此處にて經過せば、南滿の飛龍が帝國的の空に飛び、獨逸の潜水艇が日本海灣に躍るも、決して絶無の事ではあるまい。否、漸る有無の問題にあらずして時日の問題であらう。所謂「霜を展んで陸氷來る」とは、即ち今の南方七八十里の處まで進ん

の場合に際して、吾が當局者は如何なる施設を爲しつゝあるか。彼等は、恰も汽車庫の三義を學んで、見ざる、聞かざる、云はざるの態度を保持して居るかの如く思はるゝ。而して國は如何なる形式の國に於て、至く獨逸の如く、露露が鐵蹄の手に落ちるや、既に旦夕に迫つて居る。此問題、落ちても、落ちなくして、何れにしても別にある。即ち國は如何なる形式の國に於て、至く獨逸の如く、露露が鐵蹄の手に落ちるや、既に旦夕に迫つて居る。此問題、落ちても、落ちなくして、何れにしても別にある。即ち

して之れと同時に、議會にても、
多少の質問、議論等はあるが、そ
れも一應の小手調べ位で、眞の
實の氣分などは少しも見ぬ。悠
々たる政府、悠々たる議會、若し
吾等をして取て一轉語を下さば
ば、悠々たる世間と云ふべき
であらう。悠々たる世間、悠々
たる政府、悠々たる議會、若し
吾等をして取て一轉語を下さば
ば、悠々たる世間と云ふべき
であらう。悠々たる世間、悠々
たる政府、悠々たる議會、若し
吾等をして取て一轉語を下さば
ば、悠々たる世間と云ふべき
であらう。

△聯合軍の違背

舊國の瓦解は、十八世紀の末に於ける波蘭の瓦解よりも今一層驚かすに至る。開き兎も角も、一萬千である。

爲めに聯合國の目標はガラリと變つたのである。

公言し得る往來があるや否や。

各國の眞似をして欲しいならぬ。

急を告ぐる真中に、如何に泰平の氣分は濃ひつゝあるよ。

予は國民新報が一月一日の號頭に、本年は、成金氣分を止めて、戰爭氣分にされど警告したる言葉を、今更に親切に感ぜざるを得ないのであ

△露國の瓦解
昨年三月以來、露國の政體は、走馬燈の如く、惡より惡惡に進み、最早やその奥底に達したと云うてもよからう。英米兩國の論者は素より「吾邦にても幾かの應聲蟲は、定れ民本主義の勝利である。露國はたのである。有體に云へば、合衆國は昨年の秋季に於て東西より獨逸を壓迫し、一舉して敗つ定め、遅くも昨年一掃にはを片付けるつもりであつた。るに昨年の三月露國革命以來、遂に、

改造の曙光である。甚だしきは、吾邦にも斯くありなしと云はねば、かゝりの口吻を、洩らしたるものさへあつたが。一昨、露國のクロンキエルと譯はれたる、ケレンスキー泥人形のクロンウエリであり、今やレニン、トロツキー等の天下たり、彼等が金剛玉様たる無敵の違算が生じて來た。英の總司令官ヘーグは、昨年の春、佛國の新紙記者に向つて、歐はい前の勝利證をなし、その臭息の荒かつたが、愈々賢明となつて、云ふ所の十が一つと仕違は、この出来なかつたものと告ぐ

低價買割譲の主義も、何時の間にや
 らば抛却し、國を擧げて獨逸の云ふ
 が儘に屈從するの有様となり。而
 して獨逸は恰も露國が始めに商賈
 として獨逸は恰も露國が始めに商賈
 して獨逸は恰も露國が始めに商賈

地方に圖は左に應に下命

愛讀者各位の愛顧に酬ひ且つ御便宜を
 計るに於て組織せる吾社地方巡廻寫眞部
 事務所及び日程を以て愈々出發御用命
 する事と致候間部員巡廻の節は陸續御
 下度希上候

社 告

■第一回撮影區域

平安南道 平安北道の兩道を一區域とし平安北

巡廻寫眞部愈出發

道靈邊を中心として東西二十里
 撮影日程 三月五日
 より廿五日迄三週間
 巡回撮影寫眞部員 武井延太郎

以前も同様、今後は露國の方面が勝國は寧ろ聯合軍側に立つて居た。斯彼參戰したてゝ懸然の援助が、手次第に取返さむ手筈となつた。公然となりたる迄である。又た兵隊の根柢より選へられたと見ても、米國の方の援助としては、それが愈々物に堪へず、早くとも今より一年の後であらう、それにしても米國の出入、不出入に向はらず、強味を加へたに相違ないが、

聯合軍側に加したものは、非常な

一年の後であらう、それにしても米國の出入、不出入に向はらず、強味を加へたに相違ないが、

遊支偶錄

蘇峰生

(四)自治は自衛也

大國を治むるは、小國を治むる如く、其の權利を侵蝕せらるゝ心配なれば、外國より其の領土を奪掠する日本に模倣して、地方には何等影響を及ぼさず、地方には何等影響を及ぼさず、向の微論として見る可し。若し地方自治が、確實に行はるゝ日には、中央政府より、以れの説也。さうする準備もなく、素地も乏しい日本に模倣して、西を組織せんとす

支那に於て、特に其の眞理なるを認む。此の意味に於て、吾人が所望する各省自治、聯邦制度の適用は、最も機宜を得たるもの也。

斯くすれば南北分裂の危きも、世界氣運は、到底小國の存立を容さざらんとする。而して恰も大亞細亞を脅ぐ所以にして却て、如く、大商船の出で来る如く、大家族各々其の所得て其地に安んずる如く、大商船の出で来る如く、大家

論議此が爲めに支那の天下は、永く
久に泰平なる可しとは云はず。相
りつゝあり。英國が世界の各所に
を變へし中央政府に立て、権力を
に於ける、植民地、領土等を、打て
に上るも、出で来るならむ。され
一ノとなし、茲に圓形的大英帝
は支那を小なうするは相ひ反して、其の
せしめて同一也。即ち

内閣の如きは、少くも沙を以て

第三者の支那に於ける干渉をせんとするもの、所謂「賦税を云はれて留め、船を、吾が本野外相にも、何故に寺内閣として推薦せしむるや」といふ事柄も、何故に寺内閣として推薦せしむるや」といふ事柄も、

うてしたか成程分りました、では何卒受取つて下さい。いはば云々、由て私の手へ送らぬなり。

うに奏請の事を諒して聞かせ

報 日 城

社

本野子母の杉を、
大宮の漬れた橋に、
物を云はぬと云ふ事になつたので
ある。本野子母一個の得失は、吾
等の關する所でないけれど、吾が
帝國が極東に於る國際
政策の根柢の、敢て全
ますから何卒御受納下さいませ

するに豫測
 部ニ云はざるも、大部
 言ひながら御座を拜付け
 分を破壊し終られたる
 見せて優し断りたまふ
 波相にござる
 實に不幸に謂はね
 此まあ委びた腕にござる
 隨體を、此いづも包んである
 幸にせよ、何れにしても、吾邦
 どうして其首師を、いへん
 つど奇麗な花の蔭の可要らし
 お所有になるもの、私はど

御免蒙りまじやう。しかし其
に銚子は、承知する男ではない
方から押返して三度も争う。
君の方は、見兼ねたか、仲に立て
です。ね、物を差上げる。と云
に何もそんなに白熱にならな
る。害めながら、學士に向ひ、
不承不審な、そんなことを、
此の意匠に於ては、石井ランシ
の協同なども、若干の意匠はあ
る。併しこれは只だ日米調解の幾
に外交の方針を根柢
より立て直さねばならぬ危
機に迫つて居るのである。

自から操
にあらわす
事極まり、
定れば其の
國を維新し
西たらしむ
中央部派

自分を除いたと云ふ迄に止まつて
恒徳の如何等の効果も、期待する
ことは出来ぬ。

つに念置でばかりでないで、
人に親切に差上げやうと云ふ
すもの駄つて貰つてお置きに
なら何のです、ねわ爾地其方
句其方も氣持がいののに。飾
うやらこやら學士の手に收
た、輕地は胸も安心したやう

八
 布施生譯
 息つて愼しく立上りさつば
 とお辭儀をするを周章て、
 往つてしまつた。餘りばな
 やつたものだから卓の上の茶

[illegible]

實馬力 十三馬力



ボータブル エンジン

二月廿七日 朝鮮總督府

此汽機係由日本製造其構造堅固且能節省燃料其價目如下

一、分入保價金 各目見積金函

二、分入保價金 各目見積金函

三、分入保價金 各目見積金函

四、分入保價金 各目見積金函

五、分入保價金 各目見積金函

六、分入保價金 各目見積金函

七、分入保價金 各目見積金函

八、分入保價金 各目見積金函

九、分入保價金 各目見積金函

十、分入保價金 各目見積金函

京畿道 抱川市 永中街 錦山 二畝半

而積 百五 針葉樹 新林

此ノ生立木 十二畝六反二畝步

一、分入保價金 各目見積金函

二、分入保價金 各目見積金函

三、分入保價金 各目見積金函

四、分入保價金 各目見積金函

五、分入保價金 各目見積金函

六、分入保價金 各目見積金函

七、分入保價金 各目見積金函

八、分入保價金 各目見積金函

九、分入保價金 各目見積金函

十、分入保價金 各目見積金函

之研究
 歐米國家主義、統一主義
 日本個人主義、民主主義
 (内外政治思想闡明) 葉小松
 國家興亡の機 要建博
 元帥號交換、日英關係、川博
 現代政治根本問題 小山重
 學制改革案問題 三宅博
 現内閣と對露政策 佐々木
 昏迷る論理主義思潮 三井平
 議會の影武者 武白
 第四十議會の印象 木舍
 教界週忌宗傳僧の遺俗 備高
 同半事件の根柢 批判 冷江
 外雜俎 (博士の無學、岡崎數件
 老僧 小上 三
 高架橋 長田 月
 小國の爲に 森田 號
 祖國の爲に 生澤 號
 悲祖國の爲に 生澤 號
 人事 植民人物養成、我我我
 慶應早稻田 學
 國風の汚隆 教育革新、早
 大倉喜八郎論 安田善三
 早川千古、郷黨の肋、林毅毅、外
 露國前皇后の秘密 (廿三年開露后に仕
 衛生上に見たる春季 小山
 浮沈傳 少年立志の巻、子子
 形見の萬年筆 松崎天
 モンロー主義と美國同盟 (英和對露

有英國製中古品賣渡
 龍山町二丁目
加藤鐵工所
 鐵板製作
 電話四三三三

普通一圓前金 番外一圓前金 郵金四圓
 普通五十錢 番外五十錢 郵金二圓
 以上各款 均係日本銀行發行之金貨 其價目 係按當時 之匯率 計算 凡欲 兌換者 請向 本行 接洽 可也

●藥劑師備入
 希聖者は服藥書
 牛乳配治用 一丁目 高麗商會
 京成明治用 一丁目 高麗商會

●勸業債券買入
 日本勸業銀行 債券月報社直設
 京成明治用 一丁目 高麗商會

●外務員募集
 以上各款 均係日本銀行發行之金貨 其價目 係按當時 之匯率 計算 凡欲 兌換者 請向 本行 接洽 可也

●事務員
 及習員採招
 希聖者は服藥書
 牛乳配治用 一丁目 高麗商會

●募集
 希聖者は服藥書
 牛乳配治用 一丁目 高麗商會

●社員
 希聖者は服藥書
 牛乳配治用 一丁目 高麗商會

●技術病院
 希聖者は服藥書
 牛乳配治用 一丁目 高麗商會

●柔術道場
 希聖者は服藥書
 牛乳配治用 一丁目 高麗商會

●朝鮮語科
 希聖者は服藥書
 牛乳配治用 一丁目 高麗商會

●英語科
 希聖者は服藥書
 牛乳配治用 一丁目 高麗商會

●大東門
 希聖者は服藥書
 牛乳配治用 一丁目 高麗商會

第百六十八回 大坂霞の家主・人

[illegible][illegible]

藥種賣藥卸商

診察時間

自午前九時
至午後六時

初診の御方は可成午前中

京城長谷川町二丁目(朝鮮銀行裏門前)

シメノウチ齒科醫院

電話八一二番

眼鏡專門

△擦墊特色

レンズ精撰

技術精巧

品位確實

價格低廉

親切勉強

(詳約定價表發行す)

京城南大町通二丁目二番地

宮川大學堂

電話二九五九番
振替京城支店貳九番

(眼鏡製造工場子弟入用)

產婦人科

京城器町

電話一二〇一番

二宮醫院

醫學士二宮亮吉

共同汽船出帆

大連行 三月六日午後八時入港

| 船名 | 出帆日 | 出帆時刻 | 出帆場所 |
|-----|------|------|------|
| 大連丸 | 三月六日 | 午後八時 | 大連 |
| 青森丸 | 三月六日 | 午後八時 | 青森 |
| 釜山丸 | 三月六日 | 午後八時 | 釜山 |
| 仁川丸 | 三月六日 | 午後八時 | 仁川 |

尼崎汽船出帆

大連行 三月六日午後八時入港

| 船名 | 出帆日 | 出帆時刻 | 出帆場所 |
|-----|------|------|------|
| 大連丸 | 三月六日 | 午後八時 | 大連 |
| 青森丸 | 三月六日 | 午後八時 | 青森 |
| 釜山丸 | 三月六日 | 午後八時 | 釜山 |
| 仁川丸 | 三月六日 | 午後八時 | 仁川 |

金泉支店

金泉支店 金泉支店 金泉支店

| 品名 | 数量 | 金額 |
|------|-----|------|
| 金泉支店 | 100 | 1000 |
| 金泉支店 | 200 | 2000 |
| 金泉支店 | 300 | 3000 |

金泉支店

金泉支店 金泉支店 金泉支店

| 品名 | 数量 | 金額 |
|------|-----|------|
| 金泉支店 | 100 | 1000 |
| 金泉支店 | 200 | 2000 |
| 金泉支店 | 300 | 3000 |

共同汽船出帆

大連行 三月六日午後八時入港

| 船名 | 出帆日 | 出帆時刻 | 出帆場所 |
|-----|------|------|------|
| 大連丸 | 三月六日 | 午後八時 | 大連 |
| 青森丸 | 三月六日 | 午後八時 | 青森 |
| 釜山丸 | 三月六日 | 午後八時 | 釜山 |
| 仁川丸 | 三月六日 | 午後八時 | 仁川 |

尼崎汽船出帆

大連行 三月六日午後八時入港

| 船名 | 出帆日 | 出帆時刻 | 出帆場所 |
|-----|------|------|------|
| 大連丸 | 三月六日 | 午後八時 | 大連 |
| 青森丸 | 三月六日 | 午後八時 | 青森 |
| 釜山丸 | 三月六日 | 午後八時 | 釜山 |
| 仁川丸 | 三月六日 | 午後八時 | 仁川 |

金泉支店

金泉支店 金泉支店 金泉支店

| 品名 | 数量 | 金額 |
|------|-----|------|
| 金泉支店 | 100 | 1000 |
| 金泉支店 | 200 | 2000 |
| 金泉支店 | 300 | 3000 |

金泉支店

金泉支店 金泉支店 金泉支店

| 品名 | 数量 | 金額 |
|------|-----|------|
| 金泉支店 | 100 | 1000 |
| 金泉支店 | 200 | 2000 |
| 金泉支店 | 300 | 3000 |

共同汽船出帆

大連行 三月六日午後八時入港

| 船名 | 出帆日 | 出帆時刻 | 出帆場所 |
|-----|------|------|------|
| 大連丸 | 三月六日 | 午後八時 | 大連 |
| 青森丸 | 三月六日 | 午後八時 | 青森 |
| 釜山丸 | 三月六日 | 午後八時 | 釜山 |
| 仁川丸 | 三月六日 | 午後八時 | 仁川 |

尼崎汽船出帆

大連行 三月六日午後八時入港

| 船名 | 出帆日 | 出帆時刻 | 出帆場所 |
|-----|------|------|------|
| 大連丸 | 三月六日 | 午後八時 | 大連 |
| 青森丸 | 三月六日 | 午後八時 | 青森 |
| 釜山丸 | 三月六日 | 午後八時 | 釜山 |
| 仁川丸 | 三月六日 | 午後八時 | 仁川 |

金泉支店


金泉支店 金泉支店 金泉支店

| 品名 | 数量 | 金額 |
|------|-----|------|
| 金泉支店 | 100 | 1000 |
| 金泉支店 | 200 | 2000 |
| 金泉支店 | 300 | 3000 |

金泉支店

金泉支店 金泉支店 金泉支店

| 品名 | 数量 | 金額 |
|------|-----|------|
| 金泉支店 | 100 | 1000 |
| 金泉支店 | 200 | 2000 |
| 金泉支店 | 300 | 3000 |



袖珍綴クローノ類美本 七百餘頁 定價金壹圓參拾錢
 一世に朝鮮語の會話に精通せられむとする人士は遂に本書を購
 せられよ。
 殊に同氏の前著「朝鮮語會話」を研究せられ
 し人士に取めては必讀の續篇とす
 本書の内訳は實弱ならず、試みに其の一端を示せば
 イ、單語の數は實に八千以上なり
 ロ、難解の副詞に適譯を附したるもののみ
 ても五百とす
 ハ、内鮮人間に膾炙せる俚諺の適譯計六百
 ニ、譯方正確にして且つ嶄新
 本書は各學校教師及學生各裁判所警察官警
 通譯生銀行會社並に講習會に對し宿年の渴
 望を充つに足る良著たり幸に一本を机上に
 載せて御愛讀の榮を賜らむことを祈る

發行所 京城太平通一丁目 京城日報社代理部
 振替京城三〇〇番
 取次所 大阪屋號 巖 松 堂

[illegible]